

令和3年度 第2回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：令和3年6月10日（木）10:00～11:00
2. 場 所：WEB 会議（国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201 会議室）
3. 出席者：
（委 員）
近藤議長、上村委員、喜連川委員、鹿野委員、昌子委員、
千葉委員、米田委員
（事務局）
三島理事長、城理事、真先執行役、難波統括役、阿蘇経営企画部長、
橋本総務部長、藤本経理部長、岩本研究開発統括推進室長、塩見実
用化推進部長、野田国際戦略推進部長、丈達創薬事業部長、竹上医
療機器・ヘルスケア事業部長、渡辺再生・細胞医療・遺伝子治療事
業部長、水野ゲノム・データ基盤事業部長、日野原疾患基礎研究事
業部長、宮川シーズ開発・研究基盤事業部長、町田革新基盤創成事
業部長、黒木研究公正・業務推進部参事役、須藤経営企画部次長
4. 議事
 1. 外部評価報告書（案）について
 2. その他
5. 議事の概要
【議事1. 外部評価報告書（案）について】
事務局より資料1を基に説明を行った。
委員からは、以下のようなコメントがあった。
 - 研究開発マネジメントの基盤構築に関する取組について、どのようなものか具体的に示した方が理解を得やすい。
 - 研究開発スピードの向上のためには、研究成果のデータマネジメントの推進だけではなく、データシェアリングの重要性を各研究者が認識した上で、平時からデータシェアリングを積極的に進めることが必要である。データマネジメントプランの提出等は、そのための具体的な行動の一つである。
 - PD/PS/PO と DC の連携を意義あるものにしていくためには、DC をサポートする体制が必要。その点を強調していただきたい。

- 効率的かつ効果的な研究開発のためには、最初の段階で臨床家視点でのニーズに照らしてシーズを適切に選別していくことが必要。
- 研究開発においては評価者の選定や評価が極めて重要であり、優れた評価者が選定されるような工夫が望まれる。
- **COVID-19** のような感染症に平時からの備えは大変重要であるが、これは感染症の分野に限った話ではなく、それ以外の分野の研究開発にも適用されることが望まれる。
- **COVID-19** などの感染症への対応にあたっては、ワクチン開発のスピード向上のためには、国内外の研究動向の把握だけでなく、海外の研究を取り巻く諸事情やファンディング体制などの研究支援体制の情報収集が非常に重要。
- 医薬品・医療機器を客観的に評価するレギュラトリーサイエンスの考え方を取り入れていくことも重要。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。